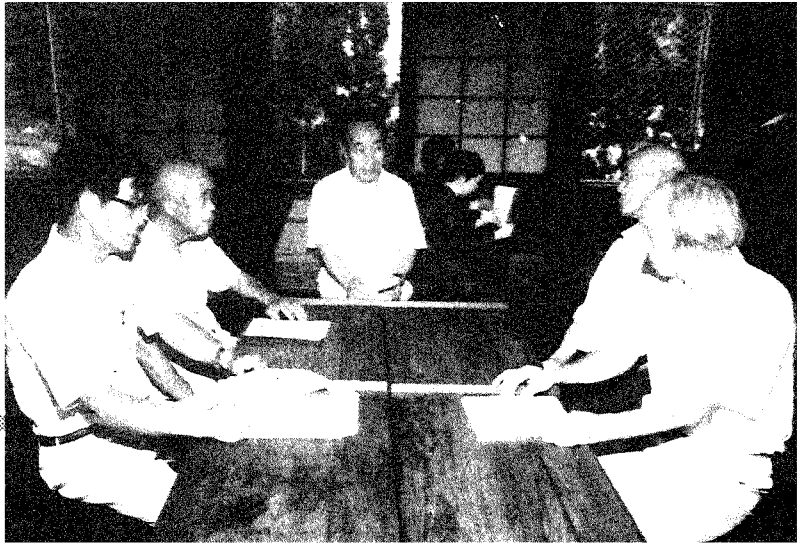


霞郷氏について語る会員の方々



尾県郷土資料館協力会（会長 山本茂作・会員二十三名）は、小形山に住み画家としてその生涯を送った藤井霞郷氏の作品の展示の準備を進めています。

この展示会は、郷土資料館の開放講座の一環として、資料館の積極的な活用を図る事を目的として行われています。協力会では、九月二十七日（日）の展示会に向け、地元にある藤井氏の絵を所有する人



山本茂作会長 (81歳)

かきょう 画家 故藤井霞郷氏の展示会 準備進む

尾県郷土資料館協力会



佐藤光男氏
副会長(77歳)

藤井氏の近所で親分をしていましたから、家には頻繁に出入りをしていました。帝展で入選したが家が狭い為大型の絵が描けない、それで我が家の奥の部屋をアトリエとして使い、秋の美術展に備えていました。藤井氏は、俳句も嗜み私も一緒に楽しみました。



井上敏雄氏
顧問 (64歳)

藤井氏は、小形山にとっても縁が深い人です。画家としても一流であり、もっと長生きをしたならとても有名になっていたと思います。また、展示会を行うことはとても意味のある事だと思えます。昭和十五年には、「小径の秋」と言う大作をこの学校に寄付しておられます。



日向 泉氏
(62歳)

藤井氏の事は、子供心に記憶がありますね。確か、僕の一級下に娘さんがいて、この学校にも通っていたと思います。秋の収穫の頃親子で散歩しているところを見ました。

戦争が始まると子供を抱えた藤井氏は、絵を売らないと食べて行けなくなりました。胸の病は徐々に悪くなっていったと思えます。そこに来て長男の戦死、このことが死期を一層早めたのではないでしょう。今思えば、未完の大家として生涯を閉じた訳ですが、きつと生活にゆとりがあったなら大成したかと思えます。



板倉吉夫氏
(81歳)

保険の代理店をしていたので、よく藤井氏の所へ集金に行きました。段々話をして行ったら、私の親戚の者と東京で一緒に暮らしていたことがあると言う話を聞いて驚いた事があります。仕事場へもよく遊びに行きました。戦争中でしたから絵を東京へ持っていつてもなかなか売れなかった様です。生活は、大変だったと思います。

子供心に「遊んでいいな」と思いました。でもその時は、気分転換か何かしていたんでしょうね。

画家「故藤井霞郷氏 展示会」

日時 九月二十七日（日）

午前十時から午後四時

場所 尾県郷土資料館

主催 尾県郷土資料館協力会